

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
人を愛し自然を大切にす心豊かな人間を育てる ○協力し合う生徒 ○自立する生徒 ○創造していく生徒 ○支え合う生徒	・確かな学力を育てる ・豊かな心を育てる ・主体的に考え行動できる生徒を育てる ・地域や保護者と連携した教育活動を推進する

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<b>【学力状況調査の結果】</b> 全国 ○国語A、国語Bの正答率は、県・全国平均に比べやや低い。 ○国語Bについては、県平均との差が昨年度より縮まった。 ○国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が、県・全国平均より高い。 ○数学A、数学Bの正答率は、県・全国平均と比べ低い。 ○数学は「関数」、「資料の活用」、「数量や図形」に課題がある。 ○度数分布表から相対度数を求める:本校20.7%(全国45.5%)、反比例の比例定数を求める:本校15.9%(全国34.4%)、平行四辺形の特徴:本校33.1%(全国49.1%) 県 ○1年国語の正答率は、県平均に比べやや低い。「書くこと」に課題がある ○2年国語の正答率は、県平均に比べ低い。「話す・聞くこと」、「読むこと」に課題がある。 ○1年数学の正答率は、県平均に比べやや高い。「数と計算」が県平均より高い。 ○2年数学の正答率は、県平均に比べ低い。「数と式」、「数学的な技能」に課題がある。 ○2年英語の正答率は、県平均に比べ低い。基礎、活用ともに課題がある。	<b>【学習状況調査の結果】</b> ○あいさつをする生徒の割合は、県平均よりやや高い。 ○テレビ等の視聴時間(3時間以上)の割合は、県平均と比べやや低い。 ○読書時間(30分以上)の割合は、県平均よりやや高い。 ○家庭学習の時間(1時間以上)の割合は、県平均よりかなり低い。 ○テレビ(携帯・スマホ)ゲームの時間(2時間以上)の割合は、県平均よりかなり高い。 ○携帯電話・スマホの使用時間(2時間以上)の割合は、県平均よりやや高い。 ○計画を立てて勉強:本校39.3%(県50.0%)、復習している:本校31.8%(県40.3%)、自分はよいところがある:本校52.7%(県72.7%)、将来の夢や目標を持っている:本校59.3%(県69.0%)、
--	--

成果

○朝読書の取組を続けており、朝から落ち着いた学習環境を整えている。また、読書時間も多し。 ○授業の中で目標掲示を徹底しており、生徒がその目標達成に向けて授業を大切に受けている。 ○授業規律の徹底をしており、時間を守る、服装を整えることができる。 ○校内研修が充実しており、教科指導の改善が進んでいる。 ○学校行事の中で生徒自身に達成感をもたせる取組を通して、自己肯定感を高める工夫をしている。 ○家庭との連携を図り、家庭からの協力を得ている。
--

課題

○漢字の読みや基礎的な数学用語の意味などの知識について、下学年で習ったことを忘れている。 ○複雑な設問、記述式については、問題の意図を読み取れていない生徒が多い。 ○選択式、短答式の問題と比べて、記述式の問題については無解答率が高い。 ○平日・休日の学習時間は、ともに県平均より短い。 ○TVゲームや携帯電話の利用時間の割合は、県平均より高い。 ○自己肯定感が低い。
--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○数学の基礎の定着	○今年度2、3学期	○全学年 数学の基礎問題の正答率を80%以上にする。	○数学の4領域(数と式、関数、図形、資料の整理)を、問題データベースからプリントを作成し、ミニ学習の時間に(各領域ごと1週間程度)取り組む。確認テストを実施し、正答率を確認する。	○数と式は79.3%、関数は75.6%の正答率。	A	○数と式は79.3%、関数は75.6%、図形は64.2%、資料の活用は61.4%	A	○目標値80%に対して、4領域合わせたの平均が約70%である。目標達成度としては87.6%。次年度も引き続きミニ学習の時間を確保し、かつ学習内容・方法を工夫して、より高い学習の定着を図る。
○家庭学習習慣の定着	○今年度3月	○全学年 規定の家庭学習時間(1年80分、2年100分、3年120分)を超える割合を70%以上にする。	○生活実態調査を10月、11月、1月、2月に行い、平日の家庭学習時間を調査し、確認する。	○10月は62%、11月は67%と上昇している。	A	○10月は62%、11月は67%、1月は65%(3年)2月は75%(1、2年)	A	○目標値70%に対して、4回分合わせたの平均が67%である。目標達成度としては約96%。次年度も引き続き家庭学習時間を増加させるべく課題の量や内容・方法を工夫して、より高い学習の定着を図る。
○ICT活用による授業改善	○今年度3月	○全教員 ICT機器を活用して授業(国・社・数・理・英)を行う教員の割合を90%以上にする。	○活用問題、記述式問題等のイメージしにくいものなどは、実物やICTなどを活用し、五感に訴えた教材を活用していく。そのために校内研修や教科部会を充実させる。	○校内研修、教科部会とも計画通りに実施できている。ICT機器使用教員は94.4%。	S	○校内研修、教科部会とも計画通りに実施できている。ICT機器使用教員は94.4%。使用頻度も増加しつつある。	S	○今年度は、教員・生徒がICT機器に慣れる年、というスタートで校内研修や教科部会を行ってきたが、次年度においては、より情報共有化、焦点化、時間短縮化していき、研修を重ねる。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○中学校ブロックの小学校・中学校の教務主任の会を、学期に1度程度開催して、情報交換とともに、学力向上の方策を練る。 ○小中間による授業公開並びに見学生徒の情報交換を行う。 ○中学校定期テスト期間中に小学校児童にもTVやスマホ等の使用制限の取組(ノーメディア週間)を行う。
---

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習のスタンダードを年度始めに家庭に配布する。さらに学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。 ○「学習の手引き」を年度始めに配付し、シラバスとして利用した後、5月中旬テスト後に家庭に持ち帰らせ、保護者への理解も促す。また学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。 ○ノーメディアウィークやチャレンジハッピーデーの取り組みを、チラシの配布や呼びかけにより、テスト週間中に家庭の協力を得て行う。 ○あいさつ運動(交通指導とあわせて、毎日登下校時及び月に2度ほど地域に出て)を地域や保護者ととも推進する。
--